

## サーチライト With Pastor Jon 黙示録 14 章 パート 3

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

14 章の半分まで来ました。

『忍耐』

聖徒たちに告げられた言葉は「忍耐」

聖徒とは、患難時代に、144,000 人の伝道者や御使いたちのメッセージやエルサレムの二人の証人のパワフルな証に答えて、クリスチャンになった人たちのことです。

「神の戒めを守り、イエスに対する信仰を持ち続ける聖徒たちの忍耐はここにある。」

また私は、天からこう言っている声を聞いた。

「書きしるせ。『今から後、主にあつて死ぬ死者は幸いである。』」

御霊も言われる。「しかり。彼らはその労苦から解き放されて休むことができる。」(黙示録 14:12-13)

聖書預言を学んでいる皆さん、聞いて下さい。

聖書預言に魅了されて、一つ一つピースを繋げようとしていると、聖書預言を理解していないクリスチャンたちから、敵意はないのですが、こんなことを言われた経験があるでしょう。

「教会は患難時代の前半まで残る、と僕たちは信じているんだ。」

これは、この辺りでも大きな支持を得ている考え方で、“pre wrath rapture” と新しく呼ばれているものです。

聞いたことがあるでしょう。

私も以前、少しお話したことがあります。

考えとしては、「患難時代後半の激しい災い、最後の御怒り、16 章の最後の鉢の裁きが行われる直前の中間期に、携挙が起こる。教会は、患難時代前半期を通るが、後半期は免れる。」というものです。

考えてみて下さい。

天からの声は、

「書きしるせ。『今から後、主にあつて死ぬ死者は幸いである。』」（黙示録 14:13）

この節が、その新しい考えはあり得ないということを示しています。

幸いなのは、これから**死ぬ**、信者になった人たち。

なぜかと言うと、**その労苦から解き放されて休むことができる**（黙示録 14:13）から。

つまり、彼らが直面している患難、彼らを取り巻いている地上の地獄、そこから解放されて休むことができるからです。

携挙が患難時代の間で起こるのなら、どうして天の声は

『今から後、主にあつて死ぬ死者は幸いである。』

「しかり。彼らはその労苦から解き放されて休むことができる。

彼らの行いは彼らについて行くからである。」（黙示録 14:13）と言うのでしょうか。

これは、筋が通りません。

もし、この時点で携挙が起こるのなら、「今から**数日**、主に在って**耐え忍ぶ者**は幸いである。なぜなら、もうすぐ“患難期の真中の携挙”が起こるからだ。」となるはずで、「**死ぬ**」とはなりません。

天国に行くのだから。

もし、“pre wrath rapture”とか“患難期中携挙”があるなら、天からの声は、「幸いなのは、あと**2-3日**耐え忍ぶ者だ。なぜなら、携挙が間もなく起こるから。」となります。

分かりますか。

だから、「教会は、患難時代の中期まで地上に残っている」なんてことを誰かが言って来たら、こう答えましょう。

「なら、どうして天の声はここで、『幸いなのは**死ぬ者だ**』と言うのですか？

携挙されるのに。」

『今から後、主にあつて死ぬ死者は幸いである。』

「しかり。彼らはその労苦から解き放されて休むことができる。

彼らの行いは彼らについて行くからである。」

また、私は見た。見よ。白い雲が起こり、その雲に人の子のような方が乗っておられた。頭には金の冠をかぶり、手には鋭いかまを持っておられた。

すると、もうひとりの御使いが聖所から出て来て、雲に乗っておられる方に向かって大声で叫んだ。

「かまを入れて刈り取って下さい。地の穀物は実ったので、刈り入れる時が来ましたから。」

そこで、雲に乗っておられる方が、地にかまを入れると地は刈り取られた。

（黙示録 14:13-16）

これは、患難の真っ只中のことです。

患難の中にいる人々は、天からこの声を聞きます。

「今から後、主にあつて死ぬ死者は幸いである。」との言葉が与えられました。

「あなた方は、後半の患難を逃れて天国に行くのだ。」と。

そうしたら、御使いが鋭い鎌を持って、雲に乗った人の子に叫びます。

主は、まだ地上には来ていません。

『雲の上』です。

『雲』…

何度も言いますが、雲とは神の栄光、臨在、導き、指導、神がそこにいる事を表します。

それに加えてここでは、手に鎌を持ったイエスを見ます。

何をするために？

刈り取りをするために。

何を刈り取る？

マタイ 13 章を急いで開いて下さい。

マタイ 13 章では、刈り取りについて語られていて、イエスはこう言っています。

**「収穫とはこの世の終わりのことです。」(マタイ 13:39)**

主は具体的に、このたとえ話の教えは、終わりの時のことだと言いました。

これは、黙示録 14 章の刈り入れのことです。

また、別のたとえ話を示しました。

**「天の御国は、こういう人にたとえることができます。ある人が自分の畑に良い種を蒔いた。(マタイ 13:24)**

『ある人』、単数形です。

**ところが、人々の眠っている間に、(マタイ 13:25)**

『人々』、複数形。

よって、種を蒔いた人ではありません。

主は働き最中に決して眠りません。

でも、人間は眠ります。

**彼の敵が来て麦の中に毒麦を蒔いて行った。(マタイ 13:25)**

**麦が芽ばえ、やがて実ったとき、毒麦も現れた。」(マタイ 13:26)**

種蒔き人によって麦が蒔かれたのは夜間でしたが、人間は、きちんと見張っておくべきだったのです。

このたとえ話は、人間に課せられた責任についても伝えています。

眠っている…その時、敵が来る。

聖書の時代に敵がやったように、今でも、中東のある地域では同じ事が行われています。

農地を台無しにして、農家を破産に追い込むのです。

畑に入り込んで、毒麦を蒔く。

それは、麦と全く同じように見え、麦の隣で、麦と同じように育ちます。

ところが、それは実らず、成熟しても全く実りがありません。

それでも、取り敢えず食べてみると、命取りになります。

つまり、周りを破産させたければ、敵は、その人の畑に忍び込んで悪い種を蒔く。  
するとそれらが、良い種が蒔かれた土地を占拠し、畑を台無しにしてしまうのです。

「それで、その家の主人のしもべたちが来て言った。『ご主人。畑には良い麦を蒔かれたのではありませんか。どうして毒麦が出たのでしょうか。』(マタイ 13:27)

主人は言った。『敵のやったことです。』すると、しもべたちは言った。

『では、私たちが行ってそれを抜き集めましょうか。』(マタイ 13:28)

だが、主人は言った。

『いやいや。毒麦を抜き集めるうちに、麦もいっしょに抜き取るかもしれない。

(マタイ 13:29)

だから、収穫まで、両方とも育つままにしておきなさい。

収穫の時期になったら、私は刈る人たちに、まず、毒麦を集め、焼くために束にしなさい。麦のほう  
は、集めて私の倉に納めなさい、と言いましょ。』(マタイ 13:30)

「一緒に育つままにしておきなさい。終わりの時に、私たちが選り分けるから。」

次に 36 節を見て下さい。

それから、イエスは群衆と別れて家に入られた。すると、弟子たちがみもとに来て、「畑の毒麦のたとえを説明してください」と言った。(マタイ 13:36)

イエスは答えてこう言われた。「良い種を蒔く者は人の子です。」(マタイ 13:37)

「人の子」、黙示録 14 章で見たのと同じ呼び方です。

「畑」は何ですか？

「畑はこの世界のことで、良い種とは御国の子供たち、毒麦とは悪い者の子供たちのことです。  
毒麦を蒔いた敵は悪魔であり、収穫とはこの世の終わりのことです。

そして、刈り手とは御使いたちのことです。

ですから、毒麦が集められて火で焼かれるように、この世の終わりにもそのようになります。

人の子はその御使いたちを遣わします。彼らは、つまずきを与える者や不法を行う者たちをみな、御国から取り集めて、火の燃える炉に投げ込みます。

彼らはそこで泣いて歯ざしりするのです。

そのとき、正しい者たちは、彼らの父の御国で太陽のように輝きます。

耳のある者は聞きなさい。(マタイ 13:38-43)

黙示録 14 章を説明しているパワフルな箇所です。

初期の頃、サタンの策略は、教会をことごとく迫害し、悲惨に衰えさせる事でした。

出エジプト記 1 章で、イスラエルの民が迫害される様子がはっきりと書かれています。

非常に愚かなパロがイスラエルの民を迫害すると、彼らはもっと増えました。

パロが権力を振りかざして神の民を更に迫害すると、彼らの数は一段と増加しました。

そこから簡単に学べるのに、サタンは学習することもなく、教会にも同じ事をしてきました。

こうして教会史の初めの頃、サタンは教会を迫害しましたが、迫害されればされるほど、教会は大きくなり、数も増えていきました。

そこでサタンは作戦を変え、教会を揺れ動かすような戦いをする代わりに、教会の中にこっそりと入り込むようになったのです。

種は蒔かれています。

敵は、神の子供たちのどんな集まりにも、ニセ信者を送り込んでいます。

敵は、キリストの体の中心にダメージを与える毒麦を蒔いているのです。

そうして、毒麦によって教会を弱めていきます。

「なら、抜いてしまおう！」「抜いてやろう！」

イエスは「ダメだ！」と言いました。

「いや、抜くな。あなた方には見分けがつかないから。」

「誰が毒麦で、誰が良い麦なのか、あなた方には分からない。」

羊飼いや私たちでも、集会に入り込んで、人々を切りつけ、血まみれにする狼なら分かります。

そういう羊の皮をかぶった狼は、簡単に見分けがつく。

彼らが食べているものを観察すれば分かります。

羊の毛皮を着て羊らしく見えても、他の子羊の血が口の回りに付いていたら、それは羊ではなく狼です。

狼は分かり易い。

でも毒麦は分かりにくい。

ここに座っている人の中にも、多分、毒麦がいるでしょう。

本当は来たくなかったけど、ある種ゲームのような遊びのつもりで来た人。

夫や妻を喜ばせるため、或いはガールフレンドを見つけるために来た人。

何であれ、他の人はごまかせるかもしれません。

が、神の目には明らかです。

私もあなたを抜き取るつもりはありません。

私には、あなたがそれなのかは分かりませんから。

自分たちで毒麦を抜こうとすると、良い麦まで抜いてしまって、人々を傷つけることになるからです。

それからもうひとつ、手短にお話しますので、これもまた注目して下さい。

これまでの流れに沿って、黙示録が分かるにつれて見えて来るもの、人によっては初めて聞くことかもしれませんが、14章では神の秩序が説かれています。

患難時代のある時点で、救いを受けられなくなる時が来ます。

シオンの丘の144,000人はもう天に呼ばれ、救いを伝えた御使いたちは役目を終えました。

いよいよ、「鎌を入れて刈り取って下さい！」と叫ばれ、世の終わりがすぐ近くに迫ってきました。

そして、良い麦と毒麦が分けられていく。

これは、あなたや私ではありません。

私たちは天国にいますから。

そうではなく、患難時代にクリスチャンになった人たちと、本物の信者ではない人たち。

今がその時です。

何を言いたいのかというと、つまりこうです。

患難時代、ある時点で、もはや救いが不可能になる時が来ます。

それは、患難時代の真中のようです。

『賽は投げられた』

神の決断が下されました。

選り分けが始まり、鎌は研がれ、準備万端。

理解しておくべきことは、クリスチャンであっても、あなたが自分の患難の中で心を固くしていると、もしかしたら今夜、その時が来るかもしれないということです。

苦い根が芽を出して悩ましたり、これによって多くの人が汚されたりすることのないように  
(ヘブル 12:15)

聖書は、気をつけろと警告しています。

自分自身が苦難の中にいる時、苦々しい思いの中に閉じ込められることがあります。

そうはならないように。

許すことを拒否しないで！

批判的にならないで！

苦々しくならないで！

そんな賭けをしないで！

苦々しさや許せない心を持ち続けていると、自身の患難の中のある時点で扉が閉まり、悲しいことに、それが、あなたの人となりとなってしまいます。

それが、人から見たあなたになってしまいます。

批判的で、冷めた、苦々しい人。

そんなクリスチャンを見て来ました。

皆さんも見た事があるでしょう。

患難に直面している皆さん。

神の恵みや心の癒しを受けることを拒み、苦々しい思いや痛み、許せない気持ちの中に留まり続けることを自ら選んでいると、それらが生涯、あなた的人格となる時が来ます。

いずれにせよ、黙示録 6 章から 19 章の患難時代、中間地点のここで扉が閉ざされます。

選り分けろ！

刈り取りの時が来た！

麦の刈り取りだ！

良い麦は保護され、毒麦は間もなく焼かれます。

どのように焼かれるのでしょうか。

焼却は、第 2 の刈り取りの時に始まります。

それは 17 節、神の目による選り分けが終わった後、  
また、もうひとりの御使いが、天の聖所から出て来たが、この御使いも、鋭いかまを持っていた。  
すると、火を支配する権威を持ったもうひとりの御使いが、祭壇から出て来て、鋭いかまを持つ御使い  
に大声で叫んで言った。

「その鋭いかまを入れ、地のぶどうのふさを刈り集めよ。  
ぶどうはすでに熟しているのだから。」(黙示録 14:17-18)

麦ではなくて、ここでは、ぶどう。

そこで御使いは地にかまを入れ、地のぶどうを刈り集めて、神の激しい怒りの大きな酒ぶねに投げ入れ  
た。

その酒ぶねは都の外で踏まれたが、血は、その酒ぶねから流れ出て、馬のくつわに届くほどになり、千  
6 百スタディオンに広がった。(黙示録 14:19-20)

約 290 km。

これは何のことでしょうか。

これが第 2 の刈り取り。

第 1 はマタイ 13 章の麦で、既に選り分けられています。

そして第 2 がぶどうで、都の外の酒船で踏みつぶされます。

都とは、常にエルサレムです。

そこで、馬のくつわの高さの血が、290 km 流れる。

非常に激しい流血の裁きが、ここで行われます。

神の激しい怒りによる、ぶどうの刈り取り。

“怒りのぶどう”

今や、終わりの時代に向けて、舞台は整いました。

ぶどうの刈り取り人たちは、ヨエル書 3 章、イザヤ書 63 章、他様々な旧約聖書の預言者たちが、「神は  
信じない人たちを裁いて踏みつける」と宣言してきたことを、今実現しようとしています。

彼らを踏みつぶす。

「エドムから来る者、ボツラから深紅の衣を着て来るこの者は、だれか。」

(イザヤ書 63:1)

ボツラとは、メギドの谷からイスラエル北部へ上がった地。

メギドの谷とは、ハルマゲドン、全ての戦いが終わる所。

そこから、聖書に書かれている通り、ちょうど 290 km 行くと、エドムのボツラに行き着きます。

血はハルマゲドンから流れ出て、ヨルダン溪谷を下り、エルサレムの外側を流れます。

酒船の中のぶどうは、都の外で踏みつぶされ、ボツラに流れて、そしてイザヤ書 63 章。

この、ボツラから、エドムの地域から来たのは、誰だ？

しかも、その衣が染まっているのです。

「なぜ、あなたの着物は赤く、あなたの衣は酒ぶねを踏む者のようなのか。」

(イザヤ書 63:2)

「わたしはひとりで酒ぶねを踏んだ。

国々の民のうちに、わたしと事を共にする者はいなかった。

わたしは怒って彼らを踏み、憤って彼らを踏みにじった。

それで、彼らの血のしたたりが、わたしの衣にふりかかり、わたしの着物を、すっかり汚してしまっ  
た。

わたしの心のうちに復讐の日があり、わたしの贖いの年が来たからだ。」(イザヤ書 63:3-4)

これは、誰ですか？

イエス・キリストの他にはありません。

ここで、再臨の舞台が整いました。

ハルマゲドン。

いいですか、皆さん。

反キリストは、中東の力関係を牽制したり、支持したりします。

彼は、ダニエル書で書かれている南の王について聞きつけ、解決すべく南へ下ります。

その間にも、中国から日本から、東の王たちが 200 万人の兵士を引き連れて攻め込んで来て、北から  
は、北の軍勢ロシアが下って来ます。

それらは全て中東に向かって、このメギドの谷、ハルマゲドンに集結し、そこで阻止されることなく、  
メギドの谷からイスラエルを上下して行きます。

今度、一緒にイスラエルに行った時に案内しますが、この谷の上から見る景色は圧巻です。

ナポレオン・ボナパルトは、ここを初めて見た時に言いました。

「最後の戦争は、必ずここで勃発するに違いない。」

広大な戦場。

そこからエルサレムの外側キデロン、ヨシャパテの谷へ進み、ハルマゲドン、メギドの谷、エルサレム  
を下ってはるばるボツラまで、全地域を巻き込んだ大戦争となります。

ハルマゲドン。

おびただしい流血。

しかし今回、皆さんに理解してほしいのは、この時点で“賽は投げられる”、“決断が下される”という  
点です。

この時から選別され、刈り取りが始まります。

イエスはエルサレムの外でぶどうを踏みつけます。

イザヤ書 63 章にも、裁きと酒船のことが確認できます。

が、どうして具体的に“エルサレムの外”と書いてあるのでしょうか。

それは、ヘブル書 13:13 にある通り、都の外、宿営の外が、イエスが十字架にかけられた場所だったか  
らです。

私もようやく分かってきました。

理解できてきた。

選択肢は二つ。



ハルマゲドンの血の海、エドムの血の海、エルサレムの外、ヨシヤパテの血の海、これらの凄まじい血の海の中に入ることを選ぶか、それとも、イエスの血に浸るか。

イエスが十字架で死んだ時、イエス・キリストご自身の大量の偉大な血が流されて、永遠が開かれました。

あなたも私もイエスの血で洗われたのです。

イエスの血で洗われました。

イエスの血で洗われて、罪が赦されたのです。

だから私たちは、近所の人たちや友達、愛する人たちに、主の血で洗われて全ての罪が赦された、ということをお伝えしなければなりません。

イエスの血で洗われるか、最終的にハルマゲドンで血の海か。

世の終わりは、すぐ近くに来ています。

私はとても感謝しています。

この書を読めば読むほど思うのです。

「主よ。感謝します。

あなたが血で洗い清めて下さったから、私は天国へ向かっています。」

どんな患難の中にも、どんな試練に直面していても、どんな問題を抱えているとしても、愛する皆さん、これだけは覚えていて下さい。

あなたは、救われているのです。

救われています。

他に、何が重要ですか？

救われている。

他に重要なのは、友達や近所の人、親戚など、まだイエスの血に浸されていない人たちです。

もし、あなたや私の患難が、周りの人たちに伝道する機会を与えてくれるなら、それによって、彼らがイエスの血に浸されるなら、ハルマゲドンの血の海を免れるなら、引き続き患難の中にいましょう。

試練はそのままで。

それが、他の人たちに伝道する機会になるなら。

それを通して、彼らがあなたや私の中にキリストを見るなら。

今夜、御霊が教会に語られることを、聞く耳のある者に聞かせて下さい。

イエスの御名によって。アーメン。

しかし私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが決してあってはなりません。

この十字架によって、世界は私に対して十字架につけられ、私も世界に対して十字架につけられたのです。(ガラテヤ 6:14)